

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	愛知県	市町村名		大学名	
派遣日	令和 4年 8月 3日(水曜日) 10:00~12:00				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔				
アドバイザー氏名	豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 築樋 博子 氏				
相談者(受講者)	日本語教育適応学級担当教員 及び 日本語指導が必要な児童生徒と関わる教員 愛知県教育委員会外国人児童生徒語学相談員				
相談内容(講義内容)	<p><日本語教育適応学級担当教員等研修> 「これからの外国人児童生徒等教育の在り方を考える ～子どもたちの明るい未来のために～」</p> <ol style="list-style-type: none">「特別な教育課程」による日本語指導の概要「個別の指導計画」の作成具体的なコース設計と指導例<ol style="list-style-type: none">日本語指導が必要な児童生徒の多様性小学校1年3-3 中学校2年小学校5年3-5 中学校3年チーム学校としての体制づくり終わりに				
派遣者からの指導助言内容	<ol style="list-style-type: none">「特別な教育課程」による日本語指導の概要<ul style="list-style-type: none">・「特別な教育課程」による日本語指導の制度について・「特別な教育課程」による日本語指導の状況について「個別の指導計画」の作成<ul style="list-style-type: none">・「個別の指導計画」の作成は、児童生徒の状況を把握し、個に応じた指導をするために重要である。中でも、母国や日本での学習歴の把握、DLA 等による日本語の力の把握した上で、日本語指導のプログラムの配置とコース設計をする必要がある。具体的なコース設計と指導例<ul style="list-style-type: none">・多様な児童生徒に応じた指導をするためのコース設計例・母語対応の教材・様々な日本語レベルの教材等を紹介・日本語プログラムの段階についての説明・子供たちのライフコースに目を向けたキャリア教育と進路支援・保護者への情報提供の重要性チーム学校としての体制づくり<ul style="list-style-type: none">・日本語担当や担任、学年、校内の担当者、母語支援者、外部機関が連携して役割を担う。校内では、全職員に向けて、外国人児童生徒等教育について共通理解を図ることが大切である。終わりに<ul style="list-style-type: none">・日本語指導を通じて3つの側面の力を育む				

(様式3)

	<p>A 学校・社会生活への適応 B 学習・認知面の発達 C アイデンティティ形成・自己実現</p> <p>・成長・発達の過程にある子供にとって、ことば（日本語）を獲得することは、世界を広げ、成長・発達することにつながる。</p>
相談後の方針 の変化、今後の 取組方針等	<p>県内では、加配されている日本語教育適応学級担当教員数が年々増加している。日本語指導の経験の少ない教員も多く、日本語指導について学ぶ機会が必要となっている。今回は200名を超える教員が参加し、日本語指導が必要な児童生徒への支援の在り方について学ぶことができた。</p> <p>このような研修を通して、教員の資質・向上を図り、多様化する児童生徒に寄り添い、個に応じた、かつ中学卒業後も日本で生活していくことを視野に入れた支援が行われるよう、県全体で取り組んでいく。</p>